

## 事務局から

▼民主教育研究所代表を9期18年務められた堀尾輝久さんが退任され、その記念集会に感謝の意を込め、4月17日参加しました。また、理事懇談会を5月22日開催し、研究所の現状を伝え、これからの在り方について論議しました。いずれも、「研究所通信N O・217」にその報告をしています。

▼「にいがた自治体研究所」との共同で進めている佐渡調査を前回の佐渡南部に続き、6月13日、15日、北部・東部・中央部の地域に入りました。地域と学校の連携を探るため、境野健児さん（福島大学教授）とともに、佐渡の芸能文化「歌舞伎・文弥人形 鬼太鼓」を地域の力に支えられてすすめている小中学校を訪ねました。それらは学校統廃台問題と合わせて、近く特集などで報告致します。

▼「核のない世界」の世界的高揚を受け、5月のNPT会議では、核廃絶に向けた国際的約束が一步前進と見えます。沖縄の普天間基地の移設をめぐる基地反対運動は、「日米安保」問題の根本に迫っています。折

しも今年は「六〇年安保」から50年、朝鮮併合100年の節目、次号は「教育と平和の問題」を特集します。（内山）

## 編集後記

▼小中一貫教育学校の計画が県内でもすすんでいます。また一方では小中学校の統廃台計画も「切磋琢磨」「社会性を育む」等の言葉が氾濫するなかですんでいます。今回は「小1プロブレム」「中1ギャップ」等の言葉とともにすすんでいます。6・3制を未来永劫にわたって固定的に考えるものはありませんが、国民的討議を経ないで、なし崩し的に再編するのはいたたけません。教育は国民すべてのものです。

▼今回、公立、私立の各学校現場からレポートをいただきました。

現代の若者が置かれた深刻で困難な状況が炙り出されています。この背景には生活破壊がありますが、「人生、カネがすべてだ」となどと短絡的に思い込まないでもらいたい。そのためには世の中の現実を変革する取り組みが必要です。

## にいがたの教育情報 No. 102

2010年6月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所  
発行人 小林昭三  
〒951-8116  
新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル  
電話・FAX (025)228-2924  
振替口座・00640-0-12332  
Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp  
印刷所・神林印刷  
TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。

▼昨年にひきつづいて佐渡調査に参加しました。ある学校では校長先生の配慮で地元には伝わる「おんでこ（鬼太鼓）」の実演を見せてもらいました。この学校は両側を山に囲まれた手のひらのような狭隘な土地にありました。13人の全校生徒は、ときにはつらい練習に涙しながら村の青年たちから学んでいます。子どもたちは大きな財産を引き継いでいます。学びの多い調査でした。（大滝）